

平成30年度 第2回千曲市地域公共交通網形成計画策定分科会 会議概要

期 日：平成30年5月22日（火） 午後1時30分～午後4時00分

場 所：千曲市人権ふれあいセンター

出席者：委員出席 12名（1名欠席）、事務局3名

会議事項

（1）千曲市の公共交通の現状について

千曲市の公共交通に関する利用実績と、取り組んでいる事業について事務局より説明。

<事務局の説明以外に運行事業者で抱えている現状や課題について補足説明>

（齊藤委員）

稲荷山養護学校に回る姨捨線と大田原線の車両は車椅子が乗れないので、ポンチョなどの車椅子対応のバスを入れていただきたい。また、網形成計画策定後の路線の再編の際は、そういった状況も加味しながら路線を組んでいただきたい。

（久保委員）

二段目のステップが高くて乗れない利用者がいたり、障がい者の方によっては1人で乗降できずに運転手が介助しているときがあるので、車両にバリアフリーの視点を取り入れていただきたい。

あと、やまびことほっとバスについては運転時間が9時間を超えているので、運転手が2人必要になることから、網形成策定後の路線の再編の際は、そういった状況も考慮していただきたい。

（山崎委員）

車両が修理や点検の際は代車を走らせているので、たまに利用する方にとっては分かりづらく、乗り過ごしてしまったということが過去にあった。老朽化が進んでいるのでなるべく早く車両の入れ替えをお願いしたい。

（小林委員の代理 酒井委員）

千曲市管内の駅全体の利用者数は、H10と比べるとH28は13%減少している。通学利用者は14%増加、普通切符は30%減少、通勤定期は22%減少している。通学利用者の増加については、屋代高校附属中の影響だと思われる。また、通勤利用者を増やしていくために自治体と協力しながらアンケートを実施しており、これから電車やバスの利用者を増やしていくためにどのようなことが必要か分析していく予定。観光客については、特に軽井沢にきた方をいかに沿線市町村へ誘導するか議論している。

あと、車両について老朽化も進んでいるので、国や県、沿線市町村に補助金をいただきながら随時更新していく。

<委員からの意見・質問と事務局または会長からの回答>

（井藤委員）

循環バスとデマンドの利用者が減少している中で、特にデマンドの利用者が運行経費の削減幅に比べて大きく減少しているが、その傾向が分かれば教えていただきたい。

しなの鉄道については、利用者の減少傾向の分析、将来予測があれば教えていただきたい。それによって、バスのダイヤ、在り方にも影響が出てくると思う。

（事務局）

新庁舎・新体育館の建設地に老人福祉センターがあり、東部地区からデマンドを利用して老人福祉センターに来ていた方が多くいたが、新庁舎・新体育館建設に伴い廃止になったことと、1日の運行便数を9便から7便へ縮小したことが影響していると考えている。

（酒井委員）

平成21年の4駅合計が1,737,000人強の利用実績、平成28年は1,719,000人強なので、全体としては20,000人の減少。内訳について、通学は、平成21年は658,000人に対して平成28年は723,000人と70,000人弱の増加。通勤は、平成21年は589,000人に対して平成28年は550,000人と30,000人弱の減少。普通ローカル（一般の利用者）は、平成21年は472,500人に対して平成28年は437,500人と35,000人の減少。

駅ごとで見ると、特に戸倉駅が減少しているが、今後まちづくりと関連した駅前活性化計画を考え

ており、特に一般の利用者をどう増やしていくか議論していく。

(柳澤会長)

新庁舎の完成後、戸倉駅の利用者はさらに減少することが予想されるか。

(事務局)

人の流れが変わることが予想されるが、利用者の減少に直接的に影響してくるかは不明。

(柳澤会長)

平成 16 年当初に比べてサービスはどうなっているか。

(事務局)

合併当初よりは台数が増えて、路線も細かく回っている。路線を広げている割に利用者が減少しているということは、目的地に着くまでに時間がかかるなどの理由からバスから離れてしまっていると考えられる。

(柳澤会長)

現在の路線は必ずしも利用するポテンシャルが高いところにあるとは限らないと感じる。また、大循環線については 1 周の時間が長いので目的が達成できている地域とそうでない地域があると思う。こうした課題を精査する必要がある。

(酒井委員)

バスの利用時間帯別、季節別等で精査する必要があると感じるが、データはあるか。

(事務局)

今現在はそういったデータはないが、今後乗り込み調査等をやっていく中で把握していきたい。

現在、一部の地区に対してアンケートを実施した中では、高齢者は午前中に通院する方が多いと感じている。

(柳澤会長)

高齢者とそうでない方の利用する時間帯が違うので、地域によってどういう目的に対応する公共交通にしていくかを検討する必要がある。

(高村委員)

自転車道路整備やレンタサイクルなどの動きから、自転車をバスに乗せて乗車できるようになると千曲市らしさが出るのでは。

高速バス乗り場へのアクセスが充実すると利用しやすくなると思う。

(酒井委員)

要望に応じて J R とともにサイクルトレインをやり始めているが、スペース等の問題がある。

アンケートや利用者の声から、自転車で通学している児童・生徒は、雨の時は公共交通を利用する傾向が分かった。

バスの中に自転車を乗せることについて、高齢者と共存していくという意味では難しいと感じる。

(柳澤会長)

それは観光としての視点か。

(酒井委員)

はい。

(北島委員)

バスの 1 人あたりの経費が 700 円、デマンドは 1950 円となっている。運賃収入に対する運行経費が示したデータがないので、財政的な視点で判断ができない。そもそも福祉バスとして始まっているので収支が見込めないのは分かっているが、公共交通は本来は営業として成り立つ仕組みにしないといけないのではないかと。持続可能な公共交通にするという意味で、歳出入の分析を行い、営業的に成り立たないことはやらない、という決断をしていくことが必要なのではないか。

(柳澤会長)

路線ごとの負担額は出せるのか。

(事務局)

おおまかな数字は出せる。

デマンドエリア拡大縮小、廃止については、利用者と合意形成して慎重に進めていく。

持続可能な公共交通を目指していくために、ある程度の収入を見込んで進めていく。

(北島委員)

バスの路線ごと、停留所ごと分析していく必要がある。

(事務局)

はい。

(齊藤委員)

調査を行う前に、ある程度の運行形態、ビジョンを作っておいてから調査を行ったほうがいいのでは。住民の意見を尊重する中であれもこれも取り入れていたら今のような路線になってしまう。

(柳澤会長)

現在行っているアンケートは行動の実態について調査している。まずは行動の実態を把握しないと方向性が見えないと考える。

(井藤委員)

免許自主返納事業のアンケートの中で、普段から公共交通を利用しているので免許証が不要になったと回答した方に、どうして前向きなマインドを持っているかヒアリングしていただきたい。

(事務局)

はい。

(井藤委員)

網形成計画の公共交通利用の行動変容の取組も盛り込んでいただきたい。

(柳澤会長)

ターゲットは誰なのかについて、誰にとっても使いやすい、は誰にとっても使いづらいと言える。まずは、ヘビーユーザーの意見を聞きながら対応していきたい。

(宮島委員の代理 玉井委員)

デマンドも含めた乗合バスの利用実績は、県全体のピーク（昭和40年代）に比べると90%減という状況だが、ここ5年は横ばいという中で、千曲市は減少傾向にある。学生や高齢者に向けて利用促進策を行っているか。

(事務局)

学生に対しては、冬季限定で無料や半額の乗車券を交付しており、冬の学生の乗降客数は増えている。また、屋代高校附属中の校則で公共交通を極力利用するとなっていることから、利用が増えている。

今後、小学校を中心にバスの乗り方教室を実施する予定でいる。高齢者に対しては、今後議論を進めていく中で検討していきたい。

(玉井委員)

アルピコ交通でシニア向けの乗り方教室をやられていたが、感触はどうだったか。

(齊藤委員)

長野市で小学生、高齢者向けに対して乗り方教室を行っている。75歳以上はおでかけパスポートで乗車料金が割引になる制度があり、多くの高齢者の方が集まって大変好評だった。小学生に対しては、一昨年3校だったのが今年は9校と年々増加している。

(高村委員)

これから働き方が変わってきて、定住しない人が増えてくると思うので、そういった方も市民と同じサービス（お財布携帯で支払い等）を受けられたらいいと思う。

(柳澤会長)

この網形成計画はまちづくりと連携していて、どのように市民の生活を支えていくか。今まで以上に市民に密着していくとなっているが、定住しないという考えはどういうことか。

(高村委員)

最近コワーキングスペースが増えているので、定住の仕組みが変わってくると感じた。

(柳澤会長)

千曲市の網形成計画は、基本的に市民の足を対象に考えていきたい。観光も含めて考えると、千曲市外まで調査をしなければならないので1年の計画期間では難しいと考える。

(柳澤会長)

網形成計画のターゲットをどうするか、まちづくりといかに連携していくかが大切になってくる。バスを良く知らない不安はバスを使わないことに繋がってくるので、利用促進の部分で議論していきたい。

(2) 市民の移動実態について

長野都市圏パーソントリップ調査結果について事務局より説明。

<委員からの意見・質問と事務局または会長からの回答>

(柳澤会長)

長野都市圏パーソントリップ調査結果の細かな部分については情報提供していただけるのか。

(事務局)

県とコンサルに確認を取り、情報提供について了承を得ている。

(柳澤会長)

それはいつ頃になるか。

(事務局)

すでにデータは頂いているので、網形成計画策定のコンサルが決まり次第、データを分析していく。

(柳澤会長)

65歳以上の私事目的が増えているとのことだが、通院や買い物、社会活動も含めているのか。

(事務局)

はい。

(柳澤会長)

これは千曲市内も同じような傾向になっている可能性はあるのか。

(事務局)

当日資料2の2ページから、概ねの傾向は相対していると考えます。